

○麟祥院りんしょうゐん〔妙心寺門前の東木辻村にあり、寛永十一年建立、檀越稲葉丹後守侯〕

〔当院は稲葉春日局いなば かのつぼねの菩提所にして、御魂舎おたまやは後水尾院ごみづのゐんの釣殿をこゝに移されしといふ。内の総絵は狩野古右京こうきやうの筆なり。方丈には釈迦仏を安ず、運慶うんけいの作なり。迦葉尊かせふそんは朝鮮人より献じけるとなり、阿難あなんは新作。額は朝鮮梅隱ばいゐんの筆、内の襖ふすまの画は海北友雪かいほういうせつ、書院の画は狩野探幽の筆なり〕

△護天神祠まもりてんじんのやしろ〔麟祥院鎮守にして境内の東北にあり。縁起云、むかし正曆年中源頼信みなもとりのぶみこと勅を奉て叛族を退治に出陣の時、靈夢あり。内裏みやの西の方菖蒲小路あやめのの辺にて天満神現れ、頼信よりのぶに告て宣ふ、早く凶徒を退治に趣くべし、われ陣頭に在て加護すべし、と云終つて夢覚ぬ。此神勅に任て出陣ありて、一戦に凶賊を残らず滅し給ふ、依よ之こゝに天満神の社を営、参議菅原輔正卿すがはらのすけまさきやうを別当に補せられ、永く護天神まもりと称す。星霜移りて今は当院の鎮守となりて、毎歳大般若經転読あり。今時世人こんじしる事稀なれども、靈驗日々に新にしてむかしも今も和光同塵なり〕